

自分探しの“歩み”

自立支援課 課長補佐 鈴木 徹

お日様の光をまるめたような「甘夏」の収穫が一段落するこの季節。高等部でジュースやゼリーに姿を変えた甘夏は、爽やかな味とはじけた匂いととも、明るい季節の到来を知らせてくれる。雑木林も一斉に芽吹き、蝶などが花々を飛び巡り、たくさんの虫たちが帰ってくる。

「蝶は、決して無理して飛んでいるわけじゃない。あれが蝶にとってのまっすぐなんだ」。以前「朝の講話」で、こんな某新聞のコラムを紹介し話をした。ヒラヒラと飛ぶ蝶は、どこにどう飛んでいくのか分からない。一見無駄とも思える飛び方をするが、蝶にすれば目的をもって、まっすぐ飛んでいる。入所している子ども達も同じだと思う。児童自立支援施設は、過去から未来に向かう直線上にある。ここでの生活は、各々の目標を実現させるための“まっすぐ”で一番の近道なのだ。

この話は、山登りにも似ている。歩みの先には頂上（目標）があるが、そこに至るためには山岳の起伏を登降し、時にトラバース（斜面の横断）やザイルを使って懸垂下降をすることも。そこに無駄な一歩はなく、全てが欠くことのできない大切なアプローチだ。

昔、ある恩師から「人生や学問は山登りと同じだ」と聞かされた。自力で登らなければ頂上にはたどり着けないが、“大切なことは、今自分がどの段階にいるのか把握すること、その段階に応じて目標や目線を変えていくことだ”と。山登りをする際には、むやみやたらに登り始めると痛い目に遭う。計画はしっかり練って挑むことになるが、登り始めたら、頂上を見てはいけけない。山の大きさと道のりの果てしなさにただ驚嘆し押しつぶされ、ヒトのちっぽけさに力抜けしてしまう。足元の歩みだけを見つめ、辛

抱強く積み重ねる。そして恩師はこう続ける、“頂上への到達が現実味を帯びたら、今度は、自分が目指すところをしっかりと見据えるため顔を上げる。そして後ろも振り返り、これまでの努力を自賛しろ”と。

頂上を見上げ、足元を見つめ、止まり迷い、休息や自賛する、そんな時、自分自身と対峙し、“どこにいるのかを知る”。学園の子ども達が、今まさに取り組んでいることだ。

苦しい時期を過ごしている時に、暗たんたる思いで将来を見ても埒があかない。日々、一つ一つ課題をクリアするという気概で歩みを進めていると、はたと苦しい試練の時が過ぎ、思い描く景色を堪能できる時がやってくる。いつまでも足元ばかりを見続ける人生で終わらせるわけにはいかない。

この季節、学園ではそこかしこ春の使者「蕨のとう」も頭を出す。やわらかな日に芽ぐむこの小さな山菜は、苦い独特の風味が珍重される。口はばったいが、人生の曰く言い難いほろ苦さ、である。しかし、子ども達にとっては、まだまだ苦手のようだ。

『探しあぐねし蕨のとうかも己かも』（野沢節子）。この何ともいえない美味は、年齢を重ねて、少しずつ覚えればよい。子ども達は、今日も、じたばたと“あがき”ながら、己と向き合う日々を続けている。



4月 5日 入学式・始業式

4月26日

授業参観

4月 9日 写生会・身体測定

生沢分校通信



第3回前籍校・児童相談所連絡会

1月31日（木）に3回目の連絡会が行われました。退所を控えた児童については、退所に向けた日程調整や前籍校の受け入れ態勢の確立など最後の詰めのための話し合いが行われました。また、入所間もない児童については最近の様子や変容についての情報共有、今後の支援方針の確認などを中心に話し合いが行われました。

子どもたちには、前籍校の先生方に会うことを心待ちにしている様子や、寮の外でそわそわとして待つ様子も見られました。居室を掃除した子どももいました。先生方や児相の職員さんの多くが連絡会の前、終了後に子どもたちとお話をしてくれました。このような時間が子どもたちを励まし、日々の生活の活力になるのだと改めて感じました。

（生徒指導担当 野下）

中3生 進路決定に向けて

今年度は大半が進学を希望しました。それぞれの夢に向かい、努力を重ねてきました。また、進学を希望しなかった生徒も、自立に向けて、実習などを重ねています。

進学希望の生徒は志望校選びの段階から、様々に悩んできました。説明会に参加し、担任との面談を通し、各自の進路を決定してきました。出願後、倍率を見て一喜一憂していましたが、試験が近づいても、どちらかというとのんびりとした雰囲気の中、落ち着いて学習に取り組んでいました。また、面接練習に取り組むごとに、少しずつ受け答えがうまくなっていきました。

たくさんの方の助言をいただきながら自分で決めた進路・自ら選択したその道を、自信をもって、力強く歩いてほしいと思います。

（3年主任 成田）

分校運営協議会

分校運営協議会は、県教育委員会、県福祉こども未来局、町教育委員会の関係者にご出席いただき、分校の教育活動の円滑な推進に向けた諸課題を協議するために年3回開催されています。2月7日（木）には今年度最後の第3回運営協議会が開催されました。

学園より入所児童の状況報告、分校より学園と分校の連携の深まりを感じていることや学校評価、学習、児童生徒のことなど状況報告をしました。また、今年度は分校開校16年目ですので、5年ごとに実施している生沢分校報告会（第3回）についても報告させていただきました。その後、現在の課題について協議を行いました。小学部児童の入所が増え、工夫して授業を行っていることや支援級の閉級に伴う教員配置の問題や退所先が決まらないなど、児童自立支援施設に併設されている学校ならではの課題について協議しました。

学園に措置される子ども達が持つ多様な背景や諸課題を考慮しつつ、より適切な学習活動を維持するため、十分な人員の配置が望まれることや、児童自立支援施設に併設されている学校のより良いあり方について、神奈川県独自の視点に立って検討していく必要性を強く要望させていただきました。

委員の皆様方からもより良い分校運営に向けてご教示いただき、大変有意義な会議となりました。

（教務 山口）

中学校 学年末テスト

2月18日（月）、19日（火）の2日間で学年末テストが行われました。このテストは総まとめの内容であり、緊張した面持ちで全員が真剣に問題に取り組んでいました。

（教務 山口）

おいそ学園通信

送別マラソン

1月20日、神奈川県内の児童福祉施設が集まり「第51回卒業生送別マラソン大会」がこどもの国で行われました。

本番のコースは山の中を走るのアップダウンがとても激しく、そのため、練習では近隣の山道で本番以上の距離を走ることを目標にしました。とてもきつい練習でしたが、この練習のおかげで自信がついたようです。

大会当日は雨も心配されましたが無事開催することができました。結果は小学生4キロの部優勝、中学生8キロの部4位を獲得しました。また、日頃の練習の成果か、「意外と距離が短くて楽だった。」との感想が多く聞かれました。

部活動として今年度最後の対外行事でしたが、マナーよく参加することができました。

(陸上部部長 竹寮 堀野)

あすなる交歓会・作品展

平成31年2月3日、県児童福祉施設の子どもたちが参加する『あすなる交歓会・作品展』が、神奈川県立青少年センターにて行われました。

昨年8月に行われた児童福祉施設野球大会準優勝の記念カップ授与で、野球部代表S君、M君が、また、作品展で金賞を受賞したA君の3名が参加しました。隔年で行っているステージ発表は、今年はありませんでした。3人もあすなる交歓会開会式において、堂々と賞状やカップを受け取りました。

作品展ですが、今年は学園から、絵画、書道、工芸、計23点を出品しました。前日、会場に並べられた600点以上の作品の中から各分野の専門家が審査していきます。そして、集められた工芸部門の最終候補の中になんとA君の作品がありました。野球の投手を模した

塑像作品です。審査員の口から「これにしよう」と漏れた瞬間、思わず震えてしまいました。金賞(青少年センター長賞)でした。すぐさま帰宅訓練中だったA君に連絡、急遽授賞式に参加することになりました。当日、まだ信じられないといった表情のA君。授賞式後は自信に満ちた表情で、親御さんとたくさん記念写真を撮っていました。

(梅寮 道場)

スキー遠足

学年末テスト翌日の2月20日、今年も山梨県笛吹市のカムイみさかスキー場にスキー遠足に行ってきました。

昨年度も参加した等これまでに経験があり楽しそうな児童

もいれば、スキー初体験で不安そうな児童など実に様々な表情を見ることができました。

AMはインストラクターによる基本的技術指導を受け、その後は寮ごとの行動となりました。最初は思うように滑れず悔しがったり、リフトの乗降で転んでしまったりと見ていてヒヤヒヤする場面もありました。それでもその後の寮別行動では、たくさん転びながらも大きなケガやトラブルもなく、休むことなく滑ることで皆がどんどん上達していきました。中には職員も勇気のいるようなコースに果敢に挑む児童もいて、子どもたちの上達のスピードに驚かされました。

スキー遠足は県外まで出かけスキー場でのマナー・挨拶・スキー技術などを学べ、ウィンタースポーツを楽しめる行事なので今後も継続して実施していく予定です。

(桂寮 湯山)



各寮レポート

年度末ということで、各寮長より今年度を振り返ってもらいました

今年も年度末になり、梅寮の子の進路も決まりつつあります。進学する子・就職を目指しアルバイトを始める子・家に帰る子・児童養護施設に移る子・一人暮らしを目指す子などそれぞれです。日々小さなトラブルはあるものの、子どもたちは他の子の様子を見て、自分も目標を決め、後れを取らないように頑張っています。

入所当初には無理に思っていた目標に向かって成長していく姿には、子どもならではの力を感じます。覚えるべきことはたくさんありますが、目標を達成し、よいスタートを切ってもらいたいと願っています。 (梅寮長 今西)

梅

竹寮は、小6から中3までの児童が各学年揃い、とても賑やかに生活しています。今年度の竹寮は、毎週土曜日の作業に力をいれてきています。畑の土づくりを行うところから、例年よりも深く深く掘り、土壌改良を行っています。その後の種まき、雑草取り等も地道に頑張りました。今年は更に、園芸やクラフト作業も行っています。児童たちは、農作業と対比させ、『メルヘン作業』と呼んでいます。男子だって花はキレイだと思うし、育ててみたい。そんな気持ちから、花壇づくりや種まき、苗づくりから咲いた花でドライフラワーづくり、それをリース等に作り上げ、たくさんの野菜とともに収穫祭に用意することができました。実りの多い一年でした。 (竹寮長 池田)

竹

桂

今年度の桂寮は多くの子どもたちが在籍していました。人数が多いので、いつもとても賑やかでした。みんなで楽しく遊んでいる時は良いのですが、時々羽目を外しすぎて注意を受けることもありました。そんな桂寮ですが、年度末には何人かの子どもたちが退所していきます。退所する子どもたちには、桂寮で学んだことを忘れないで頑張りたいと願っています。退所がまだの子どもたちは、目標達成のために一緒に頑張りたいと思います。桂寮の良い雰囲気がいつまでも続くと良いと思っています。

(桂寮長 新納)



編集後記



先日、昨年退所した子どもから、就職が決まったとの連絡が入りました。続いて、数名の子どもから、高校合格の報告も入りました。どの子どもの声も力強く自信に満ちあふれるものでした。

今月は、多くの子どもたちが学園を巣立ちます。社会の荒波を乗り切り、いつの日か、この子どもたちからも、うれしい知らせが届きますように。